

# 目標値について

# 一般廃棄物処理基本計画における目標値

現行計画(H28～R7)

- ①1人1日あたり家庭系ごみ量
- ②事業系ごみ量
- ③最終処分量
- ④資源物回収量

次期計画(R8～R17)

- ①1人1日あたり家庭系ごみ量
- ②事業系ごみ量
- ③最終処分量
- ④リサイクル率



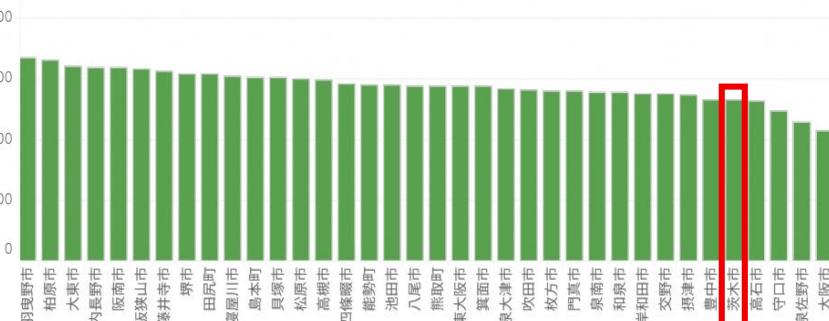
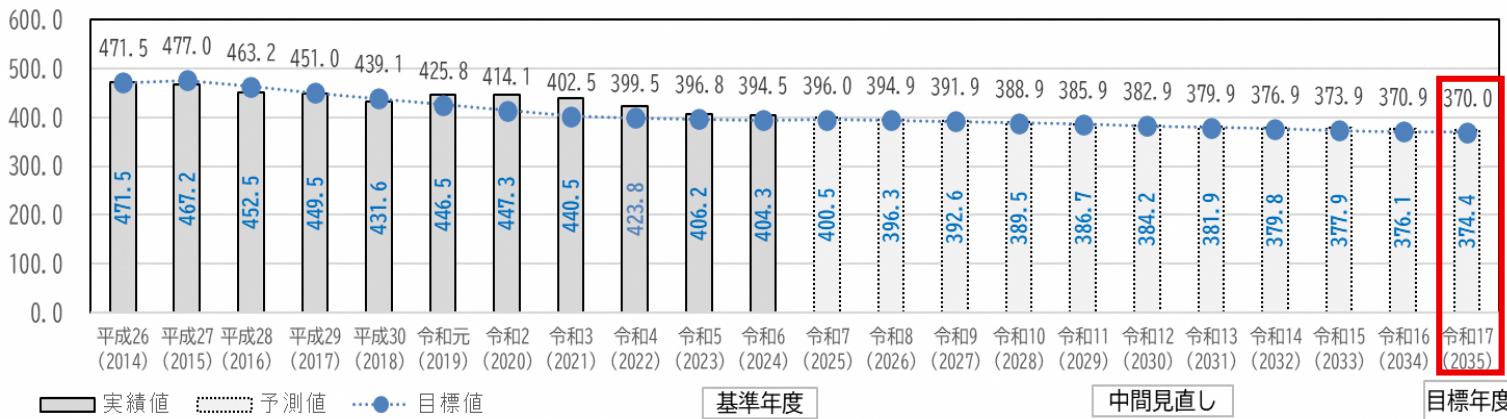
④資源物回収量については、電子化による紙媒体の減少等により、集団回収量等が年々減少していることから、国・府設定のリサイクル率(資源化量合計÷(家庭系ごみ合計(資源物を含む)+事業系ごみ合計)×100)を新たな指標として設定する。

## ①1人1日あたり家庭系ごみ量

現計画期間中に新型コロナウィルス感染拡大があり、その前後でごみ量に変化があったことから、このことを考慮に入れて推計をすると、令和17年度では374.4g/人・日となる。

本市は大阪府内でも家庭系ごみ量の少ない自治体であるが、食品ロス削減や資源物としての分別を引き続き推進するなどし、令和17年度の目標値を370g/人・日と設定する。

これは、現行計画の国478g(R12)、府400g(R7)を下回るものであり、年間削減率も、国の目標値(2.3g/年)を上回る3.1g/年となる。(国は見直し時に、年6.2g/年→2.3g/年に年間削減目標値の下方修正を行っている。)



項目	実績値	目標値	備考	
現状	533g(H24:2012)	約440g(R9:2027)	93g(15年間)	6.2g/年
次期見直し	496g(R4:2022)	約478g(R12:2030)	18g(8年間)	2.3g/年

項目	実績値	目標値	備考
現状	471.5g(H26:2014)	392.0g(R7:2025)	79.5g(11年間)7.2g/年
次期見直し	404.3g(R6:2024)	370.0g(R17:2035)	34.3g(11年間)3.1g/年

## ②事業系ごみ量

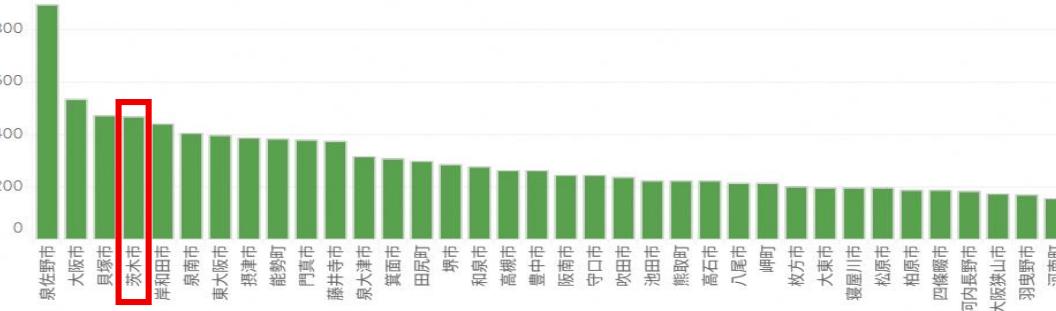
事業系ごみ量は、増減はありながら順調に減少しており、直近は削減率が鈍化してきているものの、令和7年度には前計画の目標値は達成できる見込みである。

現計画期間の推移をそのまま次期計画期間に当てはめると、令和17年度では42,571t/年となる。

現状の削減率を引き続き維持し、さらなる減量を目指して、令和17年度の目標値を42,000t/年と設定する。



【R4年度ごみ排出原単位(事業系)(g/人・日)の市町村比較】



### ③最終処分量

最終処分量については順調に減少しており、令和7年度には前計画の目標値(4,950t)は達成できる見込みである。

①及び②の目標値と、家庭系ごみ量及び事業系ごみ量と最終処分量の割合から算定した場合、令和17年度の推計値では4,570t/年となる。

現状の削減率を引き続き維持し、さらなる減量を目指して、令和17年度の目標値を4,500t/年と設定する。

(t/年)



# ④リサイクル率

リサイクル率と資源回収量、集団回収に関する平成26年度から令和6年度までの推移については下図のとおりであり、リサイクル率の推移はおよそ21~23%の間で推移している。

集団回収等が年々減少している等の状況を考慮し、目標値を23%と設定する。

【参考：目標値】国26%（R12） 府17.7%（R7）

